

平成 30 年度第 1 回丸瀬布地域まちづくり会議録

- 日 時 平成 30 年 11 月 14 日（水）18 時 30 分～20 時 20 分
- 場 所 丸瀬布コミュニティセンター 多目的ホール
- 出 席 柳田会長、管野委員、佐竹委員、関委員、谷口委員、塘委員
- 欠 席 上野副会長、鈴木委員、近藤委員、能正委員
- 町出席者 総務部企画課 佐藤課長、中原主幹、丸瀬布総合支所 会津支所長、前川主幹
- 会議内容

1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長、延会となったことについてお詫び、欠席者の報告。

2 会長あいさつ

（柳田会長）再度集まっていたいただき感謝。今後の丸瀬布、遠軽町の住みよいまちづくりという重い課題受けているが、少しでも良い意見が出されることを願う。

3 平成 30 年度地域まちづくり会議の進め方について

資料 1 により中原主幹から説明

4 平成 29 年度まちづくり会議の振り返り

5 平成 29 年度まちづくり会議の提言に係る町の考え方

一括して資料 2-1、資料 2-2、資料 3 により一括して中原主幹から説明。

次のような意見交換があった。

（柳田会長）その後、思いついたことなどがあれば出していただきたい。

発言なし

（柳田会長）事務局の方から何かヒントを。

（中原主幹）ごみの収集の回数について、資料 3 に町の考え方を載せている。昨年からは焼却炉の共用開始でごみの収集方法が変わり、燃やせるごみが増えているということで大幅に排出量も変わっている。それを踏まえて、これから検討していくとの考え方を示している。今、検討中ということである。

（柳田会長）先日の町政懇談会でも 5 つの自治会から要望が上げられている。自治連としてお願いしたいと言っている。

（塘委員）具体的にいつから、どう、というのは示されているか。

（柳田会長）持ち帰って検討するということ。

（塘委員）確かに燃やせるごみが大きく増えた。

（中原主幹）去年のまちづくり会議では排出量で 1 回に出る量が少ないからということで回数が少ないという説明をしたが、その時の説明と現状が全く変わっている。

（塘委員）夏場に収集回数が多いのは助かっている。ただ、冬場も家の中は暖かいから変わらない。

（中原主幹）夏場も町政懇談会で要望を受けて増やした経過がある。

- (塘委員) そもそも、遠軽が多いというのを知らなかった。全部一緒だと思っていた。
- (中原主幹) 後は他の地域の提言を見ると、共通した話題がある。例えば、公共交通の話とか、買い物不便だとか、保育サービス、子育て支援の話も各地域の中で話題に上がっている。あと、ラジオ局の話題があったが、先日の大規模停電の中で情報伝達手段がスピーカーの付いた車で走るしかないというような状況にもなったので、そういった防災関係の視点から他の3地域では意見交換されている。
- (柳田会長) 防災関係だと、以前、丸瀬布は自然災害がないところだと言われていたが、最近の全国の情勢を見るとそうは言っていられない。去年か今年、丸瀬布における水害危険地域に関する説明会があったが、それに対する備えはないし、集まりもないので、そうしたことも自治連が主体になってやっていくべきで、町も、もうちょっとやってもらいたい。
- (塘委員) この間の停電の時、うちの施設（ヒルトップハイツ）に送電車が来た。町が呼んでくれたのだと思ったが、北陸の方から北海道電力の要請で来たものだった。うちと緑の園に1台ずつ。あれは、本当に助かった。町は全然関係ないのか。
- (会津支所長) 北電の要請で場所も決めずにこちらに来てもらって、来てから施設に配置されたもの。
- (柳田会長) 停電時は状況を知ろうとしても北電のホームページが見られなかった。
- (谷口委員) 今回、スタンドもガソリンを出してくれたからとても助かった。ガソリンがなければ、発電機が動かせない。都会では制限があって行列ができていた。
- (塘委員) 信号が止まって、遠軽では事故とかなかったのか。
- (管野委員) あった。
- (柳田会長) そういったことも含めて、不安に思うことが色々あると思うので、そういった意見だとか、改善点を町へ言ってもらえると良い。
- (管野委員) ラジオは自治体には許可されていないとのことで、民間や第3セクターでやらなくてはならないということだが、ここ最近、網走の建設会社がラジオ局を開設した。自治体に許可されないという理由はあるのか。
- (中原主幹) 電波は公共分野に優先的に割り振られるので、放送法で使う部分に関しては、なるべく民間分野で使ってもらおうという考え方があるようだ。完全な防災設備ということであれば、ラジオではなくて防災無線となる。遠軽地域まちづくり会議では、無線技術士の有資格者の確保とか、整備資金とか課題があるが、引き続き研究していきたいという話になった。来年度に向けて網走でやられている事例とかを調べていくということも考えられる。
- (管野委員) 道の駅にキャンピングカーを呼び込むというのはすごく良いことだと思った。今回、いこいの森が7月に復旧が終わって再開したが、札幌に行くと「丸瀬布のキャンプ場ってもうオープンしたの？」とよく言われた。ということは、宣伝発信力が足りないということではないかと思った。再開などのときはCMなどドカーンと出すと

インパクトがあると思う。キャンプカーもやるのはいいと思うが、一発目は宣伝をきちんとしなければいけない。お金はかかると思うが。

(中原主幹) 遠軽のまちづくり会議でも今回マウレ山荘もリニューアルしたことに触れて、観光の視点では外に向けての発信力とか、魅力付けが必要だという話が出ている。

(管野委員) 子育て世代として気になっているのが、子どもの人数が減って、子ども同士の競い合いがなくなってしまうこと。丸瀬布の新1年生は6人と聞いている。部活動も選べなくなってしまうので、学校の枠を超えて連携してやると子どもたちは喜ぶと思う。

(谷口委員) 今、ほとんどが合同チームになっている。ただ、教員も減らされていて、自分でこれやりたいと思っても、その部活が自分の学校で存続していないとできない。町村もまたいで合併チームで大会に出るといった活動はしている。遠軽高校でもこれから部活を減らしていく方向に行かざるを得ないという話がPTA総会で出た。今やっている地域のスポーツが、高校に行けばできるという保証もなくなりつつある。

(塘委員) 小学校の知り合いで、自分がやりたいスポーツが丸瀬布にないから遠軽に行ってやりたいと言って行ってみたが、知っている子が誰もいないから馴染めなくてやめてしまった。

(関委員) 子どもでもスツと輪に入っていける子はいいいけれど、尻込みしてしまう子が入っていけない。

(管野委員) 言われてみれば、子ども同士の交流というのも難しいかなと思う。町の負担とかも大きくなるし。

(中原主幹) 白滝でも同じような話が出ていた。慣れるような機会があるといいという。子どもの数が圧倒的に減っているのだから、学校単位で部活を維持するというのはどうしようもない部分がある。

(谷口委員) 遠軽地域のスポーツ関係の親御さんとか、指導者の方々も子どもが少なくなって、かなり困っている。遠軽の中学校の野球部でも1チーム組めなくなってきている。だから、町内だったらどこでもいいから入れるというような形になってきていて、指導者も変わってきている。遠軽地域の体育サークルもメンバーが足りなくて困り始めている。そういった危機感は遠軽地域で特に増えてきている。スポーツ推進員の中でも何か取っ掛かりになるような、運動に興味を持ってもらえるようなイベントをしようということで、体育の日周辺に施設開放して子供たちを集めたりしている。ただ、ターゲットが広いので、誰がどうやってやるというのがまとまらないところもある。

(関委員) 町全体の運動会というのは、やれば顔見知りになれるかもしれない。小さい時に集まってスポーツをやると、どこ行っても知り合いがいるから馴染みやすいというのはあるけど、ポンと知らない所へ行くと一人でさびしい思いをする。

(谷口委員) 野球でもここ何年か小学校6年生の時とか中学3年の時に各少年団に声が掛かって混合でチームを分けて試合をしている。それが遠軽高校に入って同じになっ

てくる。そういうオールスターゲーム的な地域連携は学校や少年団の協力でやっていただいている。そんな取組に町としても支援をしてほしい。球場を貸してもらったり、野球連盟からのバックアップもいただいている。そういうものもやりながらスポーツを振興していくといいと思う。

(柳田会長) 教育委員会にも入ってもらって、他の小中学校との連携できるような呼びかけができるといい。

(中原主幹) そうしたことは、子育て環境にも関わってくる。子どもが好きなスポーツができるという。

(谷口委員) 町ではUターンなどで起業する場合に対する補助は何かあるか。

(中原主幹) Uターンに特化はしていないが、遠軽でお店を出したいという場合、整備費などに補助をする制度がある。業種が限られていて、小売業、飲食業、生活関連サービス業となっている。Uターンの場合も対象になる。投資額には一定の条件がある。

(塘委員) それを利用しているのは年間どれくらいか。

(中原主幹) 年間数件。丸瀬布でも実績がある。

(谷口委員) そういったことで新しい人が入って来て新しいことをやってもらいと、世代的には子育て世代の定着や魅力づくりにつながるのではないか。帰ってきて、今ある就職口だけだと大変なところはあるが、起業家というか、安く使える事務所を提供するか、低予算で事業を始められるだとかで、色々な人が入って来て新しいことを初めてもらえるようになるといいと思う。

(関委員) 丸瀬布に若者が定着するとなると、他に何かあるだろうか。

(谷口委員) 仕事口がないことには、地域がいいといっても暮らせない。高速インターネットが使えるところを貸し出してIT関係の人を誘致してみるとかがあるといいと思う。

(中原主幹) 今、仮称「えんがる町民センター」の整備に関連して中心市街地の再生計画をまとめている。その中でも空き店舗を活用して事業をやる方に対する補助するというものも項目として挙がっている。

(塘委員) 医療費のことはとても大きい。

(関委員) 隣の町はタダだけだというと、新しく来る人にとっては、こっちの方で子どもを育てようとなる。

(塘委員) 病院代は中学生ぐらいまでにすごくかかる。

(谷口委員) 紋別と遠軽では人口はどのくらい違うのか。

(佐藤課長) 若干紋別の方が多い。

(谷口委員) 紋別で中学生まで医療費無料と言ったら、負担は大きくなるということか。

(佐藤課長) そう。

(中原主幹) 美幌がほぼ遠軽と同じくらいの人口で中学生まで無償になっている。ただ、条件が色々あるかもしれない。結構細かいので。遠軽も非課税世帯は小学生まで無料な

ど条件が色々ある。

(谷口委員) これ(管内の医療費無償化に関する新聞記事)から行くと遠軽の見栄えは悪い。町が大きいほど負担が大きい、網走や紋別は無理してやっているのではないか。

(中原主幹) 中身はちゃんと見ないと、まるきり同じかどうかはわからない。あくまでも記事でまとめているので。

(塘委員) 小さい町は力があるということか。

(谷口委員) 補助しなければならぬ子どもの数が少ないということ。

(管野委員) 西興部は小さいけどたくさんお金持っているらしい。合併もしていない。

(中原主幹) 人口減少も最近はあまり進んでいない。

(塘委員) 移住者が入って来ているのか。

(中原主幹) 福祉施設などもあるので。

(塘委員) 先日、介護施設職員の事務研修があったが、どこも介護職員が驚くほどいないとのこと。途中で来た人の履歴を見ると、管内の施設が全部載っている。研修では、外国人や60歳以上の人を長く使うことで、動いた方がいいということだった。

(谷口委員) 介護の現場も人数を確保しないと、報酬が来ない仕組みになっている。

(管野委員) 外国人もこれから増えてくる。今日の新聞にも大きく載っていた。

(塘委員) 管野組には外国人が来ている。

(管野委員) 技能実習生として3名いて、増やしていかないといけないと思っている。大学生を採ろうと思っても取り合いになって、田舎の企業には来てくれない。待っていてもどうしようもないので、外国人にシフトしようと思ってる。企業としても、大学とか専門学校に行って、学費は企業が払う、その代わりうちの会社で働いてというのをやっていかなければいけないという考えもある。町としても遠軽町の企業で働くのであれば助成するというような考えはないか。

(佐藤課長) 医師確保では奨学金制度を使ってやっている。

(谷口委員) 獣医師でもやっていなかったか。

(中原主幹) 獣医師でもやっている。遠軽高校から酪農学園大の獣医学科の推薦枠を持っていて将来こっちへ戻ってきてくださいという仕組みでやっている。

(関委員) 看護師も厚生連でもやっている。

(塘委員) 最近は親が介護職員になるのを止めるらしい。近隣の専門学校も生徒数がない。

(佐竹委員) 何がだめなのか。

(塘委員) きついということと、給料が安いということらしい。実際にはそんなことないのだが。確かに24時間オムツを代えたり、お風呂に入れたり、ということはあるが。報道も悪い、虐待だとか。

(佐竹委員) 施設を転々とするということは、仕事自体は嫌いではないということではないか。

(塘委員) 多分そう。今は処遇改善といって加算があるので給料は悪くないが、人がいないから夜遅くまでとかはある。そういうのは大変と言えば大変。保育所の先生もそう。

(中原主幹) 遠軽では保育士と介護士の待遇改善という提言があった。国では保育士で最大月額4万円、介護士で月額3万7千円を出している。

(塘委員) また来年ぐらいに8万ぐらい上乗せするかもしれないという話がある。

(中原主幹) 給料が上がるだけじゃ解決しないということかもしれない。

(谷口委員) 薬剤師もなり手がいない。補助してでも地元にと考えたが、そうしても違約金を払ってでも都会の企業で連れて行ってしまおうということが起きている。

(塘委員) 公務員はどうなのか。

(佐藤課長) 応募者数は減っている。

(中原主幹) 採用は逆に増えている。

(管野委員) あれほど人気のあった札幌市役所でも内定辞退が増えているとのこと。

(谷口委員) 今は道内私大も入りやすくなっている。

(佐藤課長) 先ほどの親が子供を介護職員にさせたがらないという話とリンクしている。もっと楽な方に就職させた方がいいのではないかと考えている。

(管野委員) この間、道庁の方と話をしたが、「異動の内示だ」と出したところ、その職員は「親と相談して来ます」と言ったとのこと。

(塘委員) 最近は辞められたら困るので、何も言えなくなった。

(谷口委員) 子どもたちのスポーツ塾でも、この競技は面白そうだから行かず、あんまりだったら「今日はいいや」と言って親が休ませてしまうようなことがある。そういう時代になってきている。

(管野委員) 親に対しての「仕事とはこうだ」というセミナーみたいなもの開くとか。いろんな業種の会社を集めて仕事の説明をして、稼ぐというのを面白いものだと説く。

(佐藤課長) 道でも保護者あての説明会をやっている。

(塘委員) 都会では職員が集められないから施設の定員を減らすところも出ているようだが、利用者減らすとなると「受け入れ先がどこに？」という問題にもなる。

(谷口委員) 丸瀬布地域の人口を増やしているのは福祉産業なのだが。

(関委員) 何を改善すれば、増えるだろうか。

(谷口委員) 若者のニーズがないといけない。インターネットで人と通信するような世代だから場所はあまり関係ないような気もするが。

(関委員) 介護の人たちが増えるといい。

(塘委員) 建物が新築の施設が建つと集まるらしい。職員が集まらないから、休みが取りにくいとか、ある程度の職員がいないとシフトが組めないし、人件費がかさむ。介護報酬は決まっているので頑張っても稼げるわけでもない。

(谷口委員) 同じくらいの仕事量で、同じくらいの収入だったら、やはりオフィスがきれいな方がいいということがあって、オフィスの新築・改築が札幌市内で盛んに行われて

いるとのこと。

(関委員) ブラックアウトが冬に起きた場合の対応はどうなっているか。

(会津支所長) 老人福祉センターとコミュニティセンターが停電災害の場合の避難所になると考えている。

(佐藤課長) 一番心配なのは暖房。暖房も多分十分ではない。

(会津支所長) ポットストーブが4台ある。それだけで間に合うかどうか。このスペース(コミュニティセンターホール)に何人来るか分からない。

(谷口委員) 電気の要らないストーブをもうちょっと皆さん持った方がいい。

(佐竹委員) メーカーでもう年内は供給不能となっているとのこと。

(関委員) 町では段ボールベッドは持っているのか。

(前川主幹) 前回講習でやったのは間仕切りだけ。

(関委員) 実際に寝てみたら、本当に潰れなかった。冬用の寝袋で暖房がなくても大丈夫だった。丸瀬布でもハザードマップをやっている。

(会津支所長) 12月に更新した防災ガイドマップが配布される。それには停電に関する備えは入っていない。

(関委員) 今後はそういうものも考えて行かないといけない。

(会津支所長) 今回のブラックアウトが起きて、そういうものを想定して入れていくことになると思う。

(塘委員) 支所には非常電源はあるのか。

(会津支所長) 小型のものが2台ある。新年度予算で1台と、決まっていないが日赤から1台来る予定ではある。

(柳田会長) 先日、碧雲堂の人と話して、遠軽町には温泉がいくつかあって、それらを宣伝するのに丸瀬布道の駅に足湯みたいなものを置いてはどうかという話になった。丸瀬布にしても瀬戸瀬にしても手に触って分かるお湯なので、循環風呂のようにしてはどうか。会社だけでは難しいので町で協力してくれればやりたいと言っていた。丸瀬布の道の駅だけでなく、新しい道の駅でやっても、生田原なんかもやって、湯比べみたいにしては観光の資源になるのではないか。

(塘委員) いこいの森は今年どうだったのか。

(柳田会長) 一昨年と比べるとまだ認知度が低くて減ってはいる。

(会津支所長) 一昨年とは同じくらいになっている。

(柳田会長) 今度は「ふわふわ」とかもできて遠軽とかからも人は来ている。

6 次期まちづくり会議への申し送り事項について

議論を踏まえて、次のようにまとめることとした。

(1) 子育て環境

- ・少子化でも子どもが好きなスポーツができる環境づくり(地域間連携の強化)

- ・医療費負担の軽減（Uターン、Iターンにもつながる）

(2) 人手不足対策

- ・外からUターン、Iターン者を呼び込む対策（助成や安価な事務所などの提供）
- ・介護職などについては、賃金だけでなくイメージ改善も必要
- ・オフィスがきれいだと人が来るようになるのではないか

(3) 災害対策

- ・冬期ブラックアウトへの備えを（ストーブや段ボールベッドの備蓄）
- ・ラジオなどの災害時情報伝達手段について検討

(4) 観光振興

- ・施設リニューアルなどの時にはインパクトある宣伝を
- ・各温泉のお湯を道の駅で触れるようにして、湯比べができるように

7 その他

全体会議では、管野委員が発表する（不在の時は、塘委員）。

8 閉会

佐藤企画課長

20：20 終了